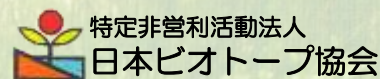


# ビオトープだより第3号

会員・BAより ビオトープに関する情報を提供します。



## 1. ホタル水路づくり研修会・伊勢原

本部事務局

神奈川県にある東京農業大学伊勢原農場にて、市民や学生が参加し、協会員・ビオトープアドバイザー（BA）の研修も行う「ホタル水路づくり研修会」を開催することとなり、2014年3月から継続しています。

これまで、粗朶護岸整備や小水路づくり、生きもの観察会・ホタル生息調査、ロープワーク講習等、様々な内容で行ってまいりました。

2021年3月22日で第57回となり（雨天やコロナ対策で中止になった回も含む）、今回は14名のご参加をいただきました。午前は、セキショウとイヌコリヤナギの植栽、草刈り、護岸補修等を櫻井会長講師で行い、午後は、協会顧問・立川周二先生に、「里川のゆくえ」についてスライドや配布資料をまじえ、わかりやすい内容でご講義いただきました。（現在、立川先生は協会誌「ビオトープ」にもコラム連載中です）

今後とも、地域の環境学習・交流の場として、ビオトープを通して身近な自然とのふれあいの中で生命の重みを実感できる場所になることを目指し、活動していきたいと思いません。皆様のご参加お待ちしております。

※詳細・ご案内は、協会WEBページ【<https://www.biotope.gr.jp/>】をご覧ください。



ゲンジボタルの幼虫とカワニナの放流  
：現地での生息は確認しているが、まだ数が少ない。  
以前上流で少し捕獲したものを飼育、増やして、今回放流した。



上：植栽、護岸整備  
下：講義の様子



セリ、ノビル：美味しくいただきました。



### SDGs 《 12. つくる責任 つかう責任 》



## 捨てるという概念を捨てよう テラサイクル



### テラサイクル (TERRACYCLE)

革新的なアイデアで、今までリサイクル不可能と思われてきたもののリサイクルを実現し、多くの無料回収モデルを提供しているアメリカ合衆国の企業。

リサイクル出来ないと思われていたものをリサイクルすることで「捨てる」という概念を変えています。消費者の方々と手を組んで回収をしたり、小売店業者や工場、自治体と手を組みリサイクルに取り組んでいます。

毎月 数万トンものゴミが大切に資源化され、埋め立てや焼却所に行かずに済むのです。

- 世界の20カ国以上で活動
- リサイクルプログラムを通じて数十億個の回収物をリサイクル



ライオンはテラサイクルジャパン合同会社と提携し、使用済み歯ブラシを回収してリサイクルするプログラムを実施。



歯ブラシや化粧品のケースから生まれ変わった遊具

- タバコの灰は肥料にする。
- フィルターはいったんプラスチックの粒にし、素敵なピクニックテーブルとしてよみがえらせる。
- 制汗剤の容器を自転車に。
- 使用済みのペンから新しいペンをつくる。

しかたがないとあきらめていること、常識だからと受け入れていることを捨てたとき、世界をひっくり返すとしてつもないアイデアが生まれることがある。私たちの身近なところにもアイデアの種が潜んでいるかもしれない。

無駄なく生まれて、繰り返し使い、  
何度もカタチを変え利用される  
江戸時代にすでにあたりサイクル

古くなって着られなくなった着物は…

- 着物は古着屋へ売る
- 使える部分を作り直して子ども用に
- 端切れや糸は古着屋に売る
- ポロボロになった布は雑巾にする
- 下駄の鼻緒にする
- 使い古した雑巾は燃やして燃料に
- 燃やして残った灰は「灰買取り業者」に売る

